

令和元年度事業報告

1) 普及活動の充実

①企画展の開催（定期展示会開催事業）

- ・名 称 令和元年度企画展「化石になった木とはっぱ」
 - ・期 間 7月13日（土）～9月29日（日）
 - ・期間中入館者 8, 300名
 - ・企画展関連事業 ケイカボクを磨こう 8月24日（土） 参加者 10名
- ※企画展開催にあわせて寄贈された珪化木の樹種特定に関する報道発表を行った
（別紙資料参照）

②講座等の開催

- ・名 称 みずなみ化石教室（半日コース・一日コース）
開 催 日 毎月第1日曜日・第2日曜日（1～3月は第3日曜日）
半日コースは通年（12回）、一日コースは4～12月（9回）
- ・名 称 夏の体験教室～化石マイスター養成編～
開 催 日 7月25日（木）、26日（金）、8月10日（土）
9時30分～15時
講 師 鈴木 苑子氏（筑波大学大学院）：7月26、27日
村宮 悠介氏（深田地質研究所）：7月26、27日
西岡佑一郎氏（ふじのくに地球環境史ミュージアム）：8月10日
川瀬 基弘氏（愛知みずほ大学）：8月10日
- ・名 称 夏の体験教室～化石マイスター認定編～
開 催 日 8月18日（日）9時30分～15時30分
講 師 安藤 佑介（当館学芸員）
- ・名 称 化石・鉱物を使ってアクセサリーを作ろう
開 催 日 6月2日（日）9時30分～11時30分、13時～15時
講 師 安藤 佑介（当館学芸員）
- ・名 称 恐竜の模型を作ろう（入門編）（応用編）
開 催 日 8月4日（日）
9時30分～11時30分（入門編）、13時～15時30分（応用編）
講 師 徳川広和氏（恐竜模型作家）

③イベントの開催

- ・名 称 瑞浪市制 65 周年記念 瑞浪市民公園「博物館に親しむ日」
- ・開 催 日 5 月 5 日（日・祝）
- ・概 要 例年実施していたこいのぼり祭に代わり博物館に親しむ日と題して市民公園文化施設 4 館を無料開放し、スタンプラリー、各館で講座等を実施した。

④団体対応

団体名	対応日	人数	内容
中津川青年会議所	9 月 8 日（日）	7 名	展示解説
東海化石研究会	9 月 1 4 日（土）	1 6 名	展示解説・化石採集指導
岐阜市科学館	9 月 2 3 日（月）	4 3 名	展示解説・化石採集指導

⑤学校との連携 ※太字が市内学校

学校等団体名	対応日	人数等	内容等
名古屋市立向陽高校	8 月 2 日（金）	2 8 名	展示解説、化石採集等
名古屋大学博物館	9 月 1 1 日（水）	1 5 名	学芸員実習（化石採集）
赤坂中学校（大垣市）	1 0 月 3 日（木）	1 6 4 名	化石採集体験
瑞浪小学校	1 0 月 4 日（金）	6 年生	化石採集体験
岐阜県教員研修	1 0 月 1 1 日（金）	7 名	化石採集、地学の教育方法
小泉小学校（多治見市）	1 0 月 1 8 日（金）	6 年生	化石についての授業
土岐小学校	1 0 月 1 8 日（金）～ 1 0 月 3 0 日（水）	6 年生	化石資料セットの貸し出し
明世小学校	1 0 月 2 9 日（火）	2 6 名	展示解説、ミニ授業
濃南小学校（土岐市）	1 1 月 1 日（金）	1 8 名	化石について授業、化石採集
土岐小学校	1 1 月 1 3 日（水）	5 7 名	展示解説
山岡小学校（恵那市）	1 1 月 1 4 日（木）	3 3 名	化石について授業、化石採集
七和小学校（三重県）	1 1 月 1 4 日（木）		化石資料の提供
大山田西小学校（三重県）	1 1 月 1 6 日（土）		化石資料の提供
平洲小学校（東海市）	1 2 月 4 日（水）	1 4 0 名	展示解説

⑥出張講座

- ・みずなみかたりべの会講座：5 月 1 1 日（土）、文化センター
- ・埼玉県立自然の博物館特別展関連講演会：7 月 2 0 日（土）、埼玉県立自然の博物館
- ・おもしろ科学館：1 0 月 2 6 日（土）、2 7 日（日）、市民体育館
- ・きしわだ自然資料館講演会、ミニ実習：1 2 月 1 4 日（土）、1 2 月 1 5 日（日）、岸和田市立きしわだ自然資料館

2) 資料の充実と調査・研究

①資料の寄贈

・下記の方々から博物館・市への化石資料の寄贈があった。

寄贈者	点数	資料の内容
林信男・市内明世町	10点	市内産貝・コハク化石
安藤嘉章・市内薬師町	20点	市内産貝・サメ化石
深谷陽一・市内高月町	100点	珪化木・土岐石等
大浦雅則・岐阜市	10点	市内産シカ化石、魚化石

②外部研究者による収蔵資料の調査

- ・芳賀拓真（国立科学博物館）：生俵層産巻貝化石の調査（7月19日）
- ・蜂矢喜一郎（東海化石研究会）：師崎層群産魚類化石の調査（2月20日）

③収蔵資料の貸し出し

- ・みよし市立歴史民俗資料館：夏季企画展「東海の化石から探る、生きもの4億年」
7月10日から10月20日、デスモスチルス、イサナセタス等計7点
- ・蒲郡市生命の海科学館：蒲郡市生命の海科学館20周年記念企画展「ペルーの対岸・東海地方にもいた！インカクジラの先駆者たち」
12月7日から3月1日、イサナセタス頭骨レプリカ1点
- ・蜂矢喜一郎（東海化石研究会）：師崎層群産魚類化石13点（2月20日から1年）
- ・近藤康生（高知大学）：高知県産貝類化石の調査（3月1日から6月30日）
- ・川瀬基弘（愛知みずほ大学）：瑞浪市産オカミミガイ化石（3月22日から1年）

④調査・研究事業（化石資料調査収集事業）

(1) 調査

- ・北海道羽幌町：白亜紀の貝、サメ化石
9月3日から7日にかけて北海道の羽幌町で調査を行い、白亜紀の貝、アンモナイト、サメ化石約40点を採取した。

(2) 研究

- ・九州産カニ化石の研究（担当：安藤、継続中、一部を論文で発表）
- ・日本産オキナワアナジャコ属化石の再検討（担当：安藤、継続中）
- ・瑞浪産エゾイガイ殻のストロンチウム同位体年代
（担当：安藤、名古屋大学博物館と共同、令和2年度完了予定）
- ・瑞浪産エゾイガイ化石の酸素同位体比による古環境の復元
（担当：安藤、名古屋大学博物館主導、研究協力）
- ・19世紀に外国人によって記載されたムカシエンコウガニ、ムカシメクラガニ

の国際動物命名規約に基づく諸問題の解決（担当：柄澤）

・生命の樹プロジェクト十脚類、全群の系統解析に関わる共同研究

（担当：柄澤、アメリカ研究者チームとの共同研究）

3月末までに下記論文が出版された。

Ando, Y., S. Kawano, and H. Ugai. 2019. Two new species of Decapods from the Eocene Sakasegawa Formation in Amakusa Islands, Kyushu, Japan. *Neues Jahrbuch für Geologie und Paläontologie* 293(1): 57-66.

Karasawa, H., and H. Kato. 2019. The identify of *Cancer (Arges) parallelus* De Haan, 1833 (Decapoda: Brachyura: Pilumnidae), a fossil crab described from Japan during the 19th century. *Journal of Crustacean Biology* 2019: 1-6.

Karasawa, H. 2019. *Galathea nasimae*, new name for *Galathea keijii* Tirmizi & Javed, 1993, preoccupied by *Galathea keijii* Karasawa, 1993 (Decapoda: Anomura: Galatheididae). *Zootaxa* 4590(2): 296-296.

Schweitzer, C. E., R. M. Feldmann, and H. Karasawa. 2020. Part R, Revised, Volume 1, Chapter 8T9: Systematic Descriptions: Superfamily Parthenopoidea. *Treatise online* 131: 1-11.

Schweitzer, C. E., R. M. Feldmann, and H. Karasawa. 2020. Part R, Revised, Volume 1, Chapter 8T10: Systematic Descriptions: Superfamily Eriphioidea. *Treatise online* 132: 1-8.

Karasawa, H. 2020. The identify of *Paramursia circularis* Karasawa, 1989, with notes on *Mursilata* Hu and Tao, 1996 (Decapoda: Brachyura: Calappidae). *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum* 46: 17-20.

Karasawa, H., and F. Takahashi. 2020. A review of the Late Cenozoic Cancridae (Decapoda) from West Japan, with descriptions one new genus and one new species. *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum* 46: 21-43.

大江文雄・安藤佑介・鶴飼宏明・廣瀬浩司・河野重範. 2020. 熊本県天草市五和町に分布する更新統小串層の耳石群集. *御所浦白亜紀資料館報* 21: 1-20

Ando, Y., H. Hirose, H. Ugai, and K. Shimada. New records for decapods from the Cretaceous Goshoura Group (Albian to Cenomanian) Amakusa City, Kyushu, Japan. *Bulletin of the Goshoura Cretaceous Museum* 21: 21-33.

⑤古生物データベースの更新（資料検索システム管理経費）

館蔵資料の一層の活用を図るため、ボランティアの協力により、インターネットで館蔵資料を検索・閲覧できる古生物データベースのデータ更新、標本整理を継続する。古生物データベースは博物館のホームページで公開している。3月31日時点で、4,618点の標本が登録されている。

⑥化石博物館研究報告の発行（定期研究報告発行事業）

令和2年3月13日に46号を出版した。発行部数は300部であり、8編（オラ

ンダ4編、日本4編)の論文が収録されている。なお、令和元年度にオンライン用のISSNを取得したため、Zoobankへの登録とあわせて令和2年度から論文の原稿受理後、化石博物館のウェブサイトで随時公開を行う予定である。

⑦展示資料等の購入(展示備品等購入事業)

- ・図書コーナー用図書：6冊(リアルサイズ古生物図鑑など)
- ・クリーニング用コンプレッサー：日立製のベピコンを4月に購入
- ・高圧洗浄機：別館の清掃、館外の清掃、地層見学地の清掃用

3) その他

- ・特集番組の収録について(令和元年11月～令和2年1月)

東海地方に焦点を当てたドキュメンタリー番組「東海の肖像」(ケーブルテレビKATCH 12 ch)の番組制作に協力した。化石博物館の誕生とその後の活動を紹介する28分の番組「かつてここは海だった!～中央自動車道建設で見つかった真実～」が1月24日に刈谷市周辺で放送された。また、東濃地域ではおりベネットワークにより令和2年6月20日～6月25日(20日と21日は10時、22日は11時、23日は12時、24日は14時、25日は15時)に放送予定である。

資料

令和元年度入館者数

(単位：人)

月	一般	小中	一般団体	小中団体	合計	30年度	比較
4	880	842	106	144	1,972	1,756	216
5	2,533	2,276	107	161	5,077	5,085	-8
6	649	515	95	192	1,451	1,288	163
7	972	751	65	110	1,898	1,990	-92
8	1,984	1,710	136	450	4,280	4,318	-38
9	1,152	1,015	99	200	2,466	1,753	713
10	877	607	260	648	2,392	2,172	220
11	890	692	241	575	2,398	2,856	-458
12	368	301	98	330	1,097	1,081	16
1	474	428	26	101	1,029	803	226
2	643	551	27	129	1,350	1,124	226
3	542	519	0	0	1,061	2,277	-1,216
合計	11,964	10,207	1,260	3,040	26,471	26,503	-32

令和元年度野外学習地利用者

(単位：人)

月	個人組数	個人人数	団体組数	団体人数	組数合計	人数合計	30年度	比較
4	277	1,007	2	25	279	1,032	1,103	-71
5	484	1,710	11	375	495	2,085	1,573	512
6	127	433	5	170	132	603	677	-74
7	163	546	2	57	165	603	839	-236
8	356	1,269	11	397	367	1,666	1,820	-154
9	216	737	6	141	222	878	728	150
10	155	537	13	1,039	168	1,576	2,251	-675
11	257	849	23	1,303	280	2,152	2,305	-153
12	89	288	7	365	96	653	606	47
1	71	146	2	24	73	170	198	-28
2	124	384	2	159	126	543	281	262
3	167	577	0	0	167	577	916	-339
合計	2,486	8,483	84	4,055	2,570	12,538	13,297	-759

令和元年度みずなみ化石教室参加者

(単位：人)

半日コース		一日コース		上級コース	
開催日	受講者数	開催日	受講者数	開催日	受講者数
4月21日	31	4月21日	34		
5月12日	31	5月12日	30	5月25日	9
6月9日	31	6月9日	25		
7月14日	29	7月14日	26		
9月8日	25	9月8日	29		
10月6日	30	10月6日	29		
				10月26日	11
11月3日	25	11月3日	34		
12月1日	13	12月1日	12		
1月26日	15				
2月23日	31				
3月22日	中止				
開催日数 10日	261	開催日数 7日	219	開催日数 2日	20
				計 300人	

令和元年度各講座受講状況

講座名	開催日	受講者数	定員
化石のレプリカを作ろう	5/5	14人	20人
化石・鉱物を使ってアクセサリを作ろう	6/2	5組	10組
夏の化石教室 化石マイスター養成編①	7/25	23人	25人
夏の化石教室 化石マイスター養成編②	7/26	25人	25人
夏の化石教室 化石マイスター養成編③	8/10	20人	25人
夏の化石教室 化石マイスター認定編	8/18	6人	20人
恐竜の模型を作ろう (入門編)	8/4	18人	20人
恐竜の模型を作ろう (応用編)	8/4	12人	15人
コハク原石を磨こう①	10/27	8人	20人
コハク原石を磨こう②	10/27	17人	20人
洞窟からホ乳類化石を探そう①	11/17	5人	20人
洞窟からホ乳類化石を探そう②	11/17	20人	20人
コハク原石を磨こう③	11/24	10人	20人
コハク原石を磨こう④	11/24	14人	20人
合計 (6/2を除く)		192人	270人

全国3例目 ブナ樹木化石

瑞浪、1900万年前は涼しかった!?



ブナの化石に触る遠山さん(左)と安藤学芸員(右)＝瑞浪市明世町戸狩の化石博物館で

瑞浪層群本郷層から採集し公開

二点はいずれも幹で、直径四十〜五十センチ、長さ六十七センチと大型。海に近い陸地の地層「瑞浪層群本郷層」から採集され、瑞浪市内では初の大型の樹木化石となった。化石は、同市土岐町で喫茶店を営む遠山英俊さん(六四)が、五十年ほど前に実家が所有する山林で見つけたという。ハンマーで地層から引き抜き、造林業者に自宅まで運んでもらい、そのまま保管。自宅を取り壊すことになった

瑞浪市化石博物館は十一日、同市土岐町の千九百万年前の地層から約五十年前に見つかっていた樹木の化石二点を鑑定した結果、ブナであることが分かったと発表した。ブナの化石としては岩手県と美濃加茂市に次ぐ全国三例目。当時のこの地域は涼しい気候だったことを裏付ける発見となった。

(斎藤航輝)

ため、今年一月に市に寄贈した。同館は寄贈を受けた後、福島県恐竜博物館の寺田和雄主任研究員と半年ほどかけて共同で鑑定。化石の薄片を作成し、道管や繊維の細胞の配置を分析して、ブナ属であることを特定した。

これまで市内では、ブナの葉の化石は見つかっていましたが、葉は風で飛んだり、水で流れたりするため、産出地がそのまま生育地とは言い切れなかった。化石博物館の安藤学芸員は「ブナは低地に生い茂っていたとみられる。瑞浪は伊勢湾岸のような環境だったのかもしれない」とみている。安藤学芸員によると、樹木の化石を観賞用に使っている人は多いが、鑑定できる研究者が少ないため樹種が特定されていないことが多いという。遠山さんはブナの化石二点のほかにも、樹木の化石を一点寄贈。鑑定の結果、ケヤキに近く、自生範囲が広いニレ属と分かった。

ブナの化石は同館の入り口と、十三日〜九月二十九日に同館で開催される企画展「化石になった木とはっぱ」で公開する。同館☎0572(68)7710

記者の#つぶやき

クジラや貝など海にまつわる生物の化石が多い瑞浪市で、樹木の化石は新鮮に感じました。館内には、葉っぱや木の実の化石もあります。夏休みの自由研究にいかがでしょうか。



令和2年度事業経過報告

1) 普及活動の充実

①企画展の開催（定期展示会開催事業）【中止】

- ・名 称 令和2年度企画展「魚の化石水族館」
- 期 間 7月18日（土）～9月27日（日）

②講座等の開催（定期講座開催経費）

- ・名 称 みずなみ化石教室（半日コース・一日コース）【7月までは中止】
- 概 要 小学校中学年以上を対象とし、化石博物館ボランティアの解説・指導により野外学習地での化石採集（半日コース）、石膏による化石レプリカづくり＋化石のクリーニング（1日コース）を行う。

開 催 日 毎月1回

定 員 半日コース：30名、一日コース：30名

参 加 費 半日コース 500円 一日コース 一般：1,000円

- ・名 称 みずなみ化石教室上級コース
- 概 要 少人数による化石採集、化石のクリーニング、種同定を行う。
- 開 催 日 5月30日（土）【中止】、10月24日（土）
- 条 件 小学4年生以上、みずなみ化石教室参加経験者
- 定 員 10名
- 参 加 費 1,000円（入館料、教材費、保険代含む）

- ・名 称 夏の化石教室～化石マイスター養成編～【中止】
- 概 要 小学生以上を対象とし、専門家の解説・指導により野外学習地で化石採集、博物館別館で化石クリーニング等を行う。
- 開 催 日 7月30日（木）、31日（金）、8月8日（土）
- 時 間 9時30分から15時30分
- 定 員 25名
- 参 加 費 1,500円（入館料、教材費、保険代を含む）
- 講 師 川瀬基弘氏、西岡佑一郎氏、村宮悠介氏、鈴木苑子氏、当館学芸員

- ・名 称 夏の化石教室～化石マイスター認定編～【中止】
- 概 要 化石マイスター認定編修了者およびみずなみ化石教室上級編修了者を対象に、地層観察・柱状図作り・化石のレプリカ作り・認定試験を行い、修了者には修了証を授与する。
- 開 催 日 8月16日（日）

- 時 間 9時30分から15時
 定 員 20名
 参加費 1,000円（入館料、教材費、保険代を含む）
 講 師 安藤佑介（当館学芸員）
- ・名 称 恐竜の模型を作ろう（入門編）【中止】
 概 要 恐竜について最新の研究成果を紹介し、恐竜の頭部骨格模型に色粘土で肉付けをする。
 開 催 日 8月2日（日）
 時 間 9時30分～11時30分
 定 員 25名
 参加費 1,200円（入館料、教材費、保険代を含む）
 講 師 徳川広和氏（恐竜模型作家）
- ・名 称 恐竜の模型を作ろう（応用編）【中止】
 概 要 恐竜について最新の研究成果を紹介し、恐竜の全身骨格模型に石粉粘土で肉付けを行った後、皮膚の造形や彩色を行う。
 開 催 日 8月4日（日）
 時 間 13時～15時30分
 定 員 20名
 参加費 1,700円（入館料、教材費、保険代を含む）
 講 師 徳川広和氏（恐竜模型作家）
- ・名 称 コハクの原石を磨こう！
 概 要 瑞浪でも見つかっているコハクについて紹介し、外国産のコハクを磨いて標本を作成する。
 開 催 日 10月27日（日）、11月24日（日）
 時 間 10時から12時、13時から15時
 定 員 20名
 参加費 一般：1,700円、高校生以下：1,500円
 （入館料、教材費、保険代を含む）
 講 師 マイケル・クツ氏（コハクアーティスト）
- ・名 称 洞窟から哺乳類化石を探そう！
 概 要 洞窟の堆積物から哺乳類化石を拾い出し、種同定を行う。化石を観察し、哺乳類の進化について学ぶ。
 開 催 日 11月17日（日）
 時 間 10時から12時、13時30分から15時30分

定 員 20名

参加費 一般：1,000円、高校生以下：800円

(入館料、教材費、保険代を含む)

講師 木村由莉氏 (国立科学博物館)

④博物館実習生の受け入れ

概 要 7月下旬から1週間、実習生を受け入れる (現在1名)

⑤出前授業・化石資料貸し出しの実施 (市内向け)

概 要 市内の小中学校を対象に、化石博物館の資料を授業用に貸し出す。要 請があった場合、主に野外学習地で採集できる化石をケースに入れて貸し出し、理科の補助教材として役立ててもらおう。また、要望があった場合は、学芸員が出向き、資料の解説を行う。

開 催 日 要望があった場合は随時 (要予約)

講 師 当館学芸員

対 象 小学4年～中学3年

2) 資料の充実と調査・研究

①調査・研究事業 (化石博物館資料収集・備品等購入経費)

(1) 調査

- ・鹿児島県薩摩川内市：白亜紀の十脚類化石の調査、採集、9月を予定。

(2) 研究

- ・九州産カニ化石の研究 (担当：安藤、継続中)
- ・市道戸狩-月吉線道路工事の際に産出した化石 (担当：安藤、2年度完了予定)
- ・瑞浪産エゾイガイ殻のストロンチウム同位体年代
(担当：安藤、名古屋大学博物館と共同、令和2年度完了予定)
- ・化石博物館に収蔵された各種標本の再検討 (担当：柄澤)
- ・生命の樹プロジェクトー十脚類、全群の系統解析に関わる共同研究
(担当：柄澤、アメリカ研究者チームとの共同研究)

②古生物データベースの更新 (化石博物館資料収集・備品等購入経費、化石博物館システム改修事業)

館蔵資料の一層の活用を図るため、ボランティアの協力により、インターネットで館蔵資料を検索・閲覧できる古生物データベースのデータ更新、標本整理を継続する。古生物データベースは博物館のホームページで公開している。6月7日時点で、4,696点の標本が登録されている。

また、令和2年度はデータベースを管理しているサーバーの機器及びソフトウェアを更新する。

③化石博物館研究報告の発行（定期研究報告発行事業）

令和元年度にオンライン用のISSNを取得したため、投稿論文受理後に化石博物館のウェブサイトで随時公開を行うことが可能となった。4月30日に論文2編の公開を行った。現在3編の論文が投稿されており、定期的に公開を行う。なお、1月までに公開された論文については令和3年3月に冊子媒体で300部出版する。

④展示資料等の購入（化石博物館資料収集・備品等購入経費）

- ・図書コーナー用図書：はじめての古生物学、恐竜超世界等を購入予定。
- ・研究用書籍：化石の植物学、日本の貝629選等を購入予定。
- ・クリーニング用エアーツール：化石試料クリーニング器具を購入した。

3) その他

新型コロナウイルスに対する対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月4日から5月31日まで臨時休館した。6月2日から再開したが、感染防止策として、入館者数の制限、来館者カードの記入（氏名、住所、電話番号等）等を実施している。また、8月末までは同様の理由で企画展・講座の開催を中止することとした。9月以降の講座については、今後の状況を見極めながら開催を検討する。